

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

| | |
|----|-----------|
| 園名 | 久米川保育園 |
| 日時 | 令和7年7月22日 |

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・0歳児「バッタ、セミを見よう、触ってみよう」

<テーマ設定理由>

前回自由に虫に触れることができなかったので、動きと感触から虫を感じてもらいたいと思い「虫」を選んだ。

2. 活動スケジュール

平らに切った段ボール箱に虫を入れ用意する。動く虫を見て喜んだり、保育士が触れている様子に興味を示す。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

保育室内を広く整える。
平らに切った段ボール箱に白い紙を敷いて虫を置き、観察しやすいようにする。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

虫を入れたケースを保育室内に置き、子ども達がケースの周りに集まり虫を見たり、触ったり虫の後を追いかけて楽しんだ。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- A：保育士が持ってきた段ボールの中に入った虫を指差して「あ！」など声を出す。
- B：段ボールから逃げ出したバッタを目で追いかける。
- C：座りながら段ボールの中を覗き込む。
- B：保育士が手にのせたバッタを指差しながら「ばー！」など声を出す。
- D：離れたところから様子を見ていたが近づいてくる。少し様子を見て、また離れる。
- B：笑顔でバッタを触ろうとする。
- E：離れところから様子を見ていたが近づき、段ボールの中の葉っぱや紙に触れる。そのままバッタにも触れるが、動いたのを見て手を引っ込める。
- E：段ボールの中のセミに何度も触る。動くのを確認しながらも触り続ける。
- D：少し離れたところからウロウロと様子を見ている。
- B：動くセミを見ながら、保育士に笑いかける。
- C：保育士にセミを差し出され、セミをぎゅっと掴む。羽を動かす様子をじっと見る。
- B：部屋を動き回るバッタを歩いて追いかける。捕まえようと手を伸ばす。
- A：少し離れたところに座り、ずっと様子を見ている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・虫が隠れるよう草を虫ケースに入れていたが、シートを敷かずに虫ケースを置いて遊びへと入る。
- ・虫に触れてより身近に感じてもらいたいという思いから、大きさや動き、触れる虫を選んで取り組みたいと思った。
- ・動いているものへの気づき、何だろうという視線の動きが見られた。虫そのものが何かはわからなくても、何かと興味を感じているのは分かった。このような経験がたくさん積み重ねられることは良いことだと思う。
- ・動いている様子が面白いと感じたのか、笑ったり、声を発したりしていた。
- ・はじめは遠巻きに眺めていた子どももいた。手を出そうとしない子ども、すぐに手を出して触ろうとする子どもなど違う様子が見られた。
- ・見ていただけの子どもも、少しずつ近づいて触ろうとしていた。
- ・バッタが跳んで、動いていってしまうことが分かって、追いかけていく子どもがいた。見つけると嬉しそうに「いたよ」とでも言いたげに担任の保育者に笑顔を見せていたのが印象的だった。
- ・羽の部分を手先の指で触っている子どもがいた。感触の違いを感じたのだろうか。
- ・強く持ったり、握ったりする子どもがいなかったのが驚きだった。